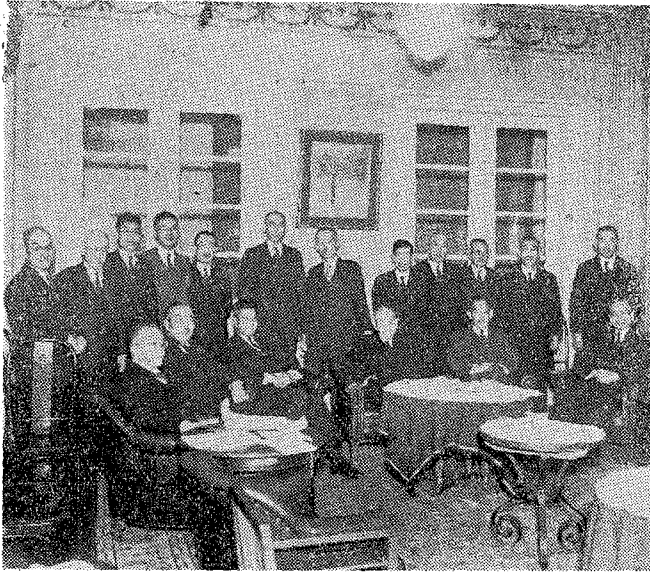


第一回座談會

昭和十五年十一月十四日於日本俱樂部

路政座談會



路政座談會

後列

前列

平井良成氏	小島教氏	井關正雄氏	和田重辰氏	和田重辰氏	近藤欣一氏	田中省吾氏	佐々木信綱氏	青山士氏	谷口三郎氏	田中好氏	藤井眞透氏	山崎嚴氏	
								三邊長治氏	佐上信一氏	松本學氏	水野會長	唐澤俊樹氏	岡田文秀氏

水野 それではこれより座談會を開きます。道路法が初めて施行せられたのは大正九年の四月だと記憶して居りますが、それ以來今日まで二十年経過したのでありますが本年はその道路法施行の記念と致し、雑誌の記念號を出さうといふことになつたのであります。この場合に道路法施行以來の道路の改良、及び法令の變革等に付て歴代土木局長並に土木局に關係せられた技術官及び事務官等のお集りを願つて、その當時の懷舊談をしたならば、道路行政上に益する所があらうと思ひまして、本日斯ういふ會を開くことになりました。お忙しい所をおいで下さいますして有難うございます。

道路法は明治二十九年に議會へ提出したことがあるのであります。それは都筑馨六君が土木局長の時であります。明治三十二年にも議會に提出したが、遂に議會を通過しなかつたのであります。その後度々道路法を修正研究をして大正七年の議會に提出したのであります。大正七年に堀田貢君が土木局長で、佐上君が道路課長であつ

たのであります。その時に多年の問題であつた道路法が初めて議會を通過したのであります。

道路法施行當時の道路は極めて不完全であつて、鋪裝といふものは殆どなく、道路改良會が出来た時には、私が記憶して居る所では本郷の大學赤門附近一町位の處に試験鋪裝をしたのであります。それまでは鋪裝といふものが殆どなかつた。それですから東京市の道路には池があるとか、或は泥鰻が居るとかいふ悪口を言つた人があつたが、さういふやうな風で當時の道路は極めて不完全であつたのであります。かゝる状況でありましたから道路の改良をせねばならぬといふ聲が起つて、民間に於ては澁澤子爵、政府に於ては吾々がその關係者でありましたから、道路改良會といふものを起して、さうして道路の改良を鼓吹しようといふことで、この道路改良會が出来た譯であります。それ以來道路の改良に付て東京市に建議したり、政府に建議したりして、東京市内の道路に鋪裝が出来たのであります。それより漸次全國の道路

に舗装が出来るやうになつたのであります。今日では東京市の如きは到る處舗装が出来て居り、又地方に於てもだん／＼舗装が出来て道路が改良されたのであります。これは一つは自動車が発達した爲めでもありますが、道路の改良會が道路改良の聲を起し全國に鼓吹したことも與つて力あつたと思ひます。その當時は舗装といふことがよく判らない者もありまして、議會に於て舗装といふことはどういふ事だといふ質問を受けたことがあります。現に貴族院議員阪本鈇之助君よりこういふ質問が出たのであります。私が其の時に舗装の説明をしたのであります。私が今日では道路法上の成語となつて、これを知らない者はないやうになつたのであります。今より二十年前の道路の状態はかやうに不完全なものであつたのであります。アメリカの鐵道王と稱せられたサムエル・ヒルといふ人が日本に來た時、日本の道路は本當の道路でない、大いに改良しなければならぬ。その改良をするに於て自分に引受けさせて呉れないかといふことを

言つたことがあります。現に日本クラブのこの部屋で私はヒルに會つてその話を聞いたのですが、彼は自分はアメリカの道路改良に従事し、大いに成績を擧げたのである。日本でも少くとも京濱間の道路の改良を自分に請負はせて呉ればやつて見る、一文も政府より金を貰はないでもよい。その代り自動車や車に對して使用料を取らさせて貰ひたい。さうすれば道路改良の費用は國や府縣のお世話にならずにやつて見せるといふやうなことを言つたことがあります。併しさういふ事は一個人に許すべきものではないから、君の話は一應尤もと思ふが、さういふことは日本では許されないと言つて斷つたことがあります。そのサムエル・ヒルが言つたことが、道路改良の一つの激勵になつた譯であります。

さういふやうな次第で、僅か二十年間にこれだけ道路の改良を見たのは、洵に異常な成績であります。私共はその當時を顧みて實に愉快に堪へないのであります。さういふやうな回顧談を記録に遺して置き、又皆さんのお

話を纏めて置いたならば我國の道路史上の文獻ともなることと思ひますので、この座談會を開いた次第であります。さういふ譯ですから、皆さんの御感想なり苦心談なり、又自分の局に當つた時に斯ういふ事があつたといふやうな、極くザツクバランなお話を願ひたいと思ひます。

最初に、道路法制定に就て最も力を盡されたのは都筑馨六君だと思ふのです。君は法制の知識もあつたので、一番初めの道路法草案を起草されたのであります。その時の草案が私の手許にありましたので、先日その草案を道路改良會の方に差上げて置きました。都筑君が道路法を起草する時にはいろいろ議論があつて、私もその時分内務省参事官でありましたので種々論議したこともあつたのです。其後種々の沿革がありましたが大成したのは堀田貢君が土木局長の時代であります。それを輔佐せられたのがこの席に居られる佐上君であります。佐上君は道路課長として最も永く道路行政に携つたので

ありまして、土木局長にはならなかつたが、課長として非常に永い間御盡力になり殊に道路法制定に付ては最も力を致されたお方であります。それでありまして先づ第一に佐上君にその當時の道路法制定の経緯竝に議會提出當時の状況のお話をお願いしようと思ひます。どうぞ……。

佐上 私は大正五年の四月に、熊本縣の理事官から内務省の道路課長に送つたのであります。その當時小橋さんが土木局長で、是非道路法をモノにしたいのであるが、それを一つやつて見て呉れないかといふやうなことでありました。私の前には元田、池田、前田、次田といふ、田の字の付く先輩の課長が四代ばかり續きまして、その各課長の時代から大體この道路法をやらうといふやうなことでいろいろ調べが出來て居つたやうであります。私が土木局に入つて驚きましたことは、今日は土木局道路課の陣容は實に堂々たるものであります。その當時は屬と雇を入れて八人位で屬が五人に雇が三人位だつた

と思ひます。それで入つて見ると道路に關する規則は、太政官達道路の費用負擔區分に關する件と、訓令四六二號といふものと、それから小橋さんが土木局長時代に、府縣費支辨里道に關する指定内規といふものが出来て居つた。それだけの規定を運用して道路の仕事をして居りました。その他の仕事は道路の改良といふことは其の當時は餘り行はれませんが、主として軌道や地方鐵道の仕事が非常に忙しいやうな状態でありました。それで愈々道路法を制定しようといふので、只今も水野先生からもお話のありましたやうに、明治二十三年の憲法發布の前に、議會へ出さないでいろ／＼な法律事項を決めようといふ時代に、道路に關する條例のやうなものを制定しようとして試みて、それが結局實現しないで終つたのと、それから明治三十何年かの議會で、衆議院を通過して貴族院で破れた案が一つありました。それは所謂都筑案だと思ひますが、その他に水野先生が法學協會の雜誌に、道路制度のことを書かれて、三號ばかり續きました論文があ

りましたが、さういふやうなものが主として道路法を作る時の母法みたやうな形になつて居りました。

道路の法規を作る以上は、地方の實際の慣習に合ふやうにしなければならぬといふので、一條々々地方の土木工事取締規則の中から、道路に關係する條文を引抜きまして、各府縣のものを比較研究して、地方の慣習に重きを置いて取調べをして見ようといふので、それに對する照會往復などをやつて居る間に一年位は夢のやうに經ちましたそこへ持つて來て今度は歐洲の道路制度の視察に行かれた人の復命書や、或は獨逸の道路法、イギリスの道路法等の翻譯をして、さうしていろ／＼議論して居る間に六年の八月頃になつたのであります。此の頃は大隈内閣から寺内内閣になつて居たのであります。その時に法制の組立ての上手な人をお迎へしなければならぬといふので地方局から佐々木光綱君に來て貰つて、佐々木君を相手にして土木局の局議を纏めて居りましたが、道路法の草案が大體出來て、法制局に行つて毎日協議を

して居つたのですが、その當時の事を今でも忘れないのでありますが、所謂都筑案なるものが貴族院へ行つた時に、貴族院では私道といふものが非常に問題になつて居りまして、私道を認定すれば直ちにそれが公共の道路になつて、その土地の所有權は或る程度の制限を受けるやうな規定になつて居つたので、それが貴族院あたりで強い反對の理由であつたといふことから、法制局で色々研究したのでありますが、その頃松村眞一郎氏が法制局の第一部長でありました。そこで道路の認定といふことと道路の路線の認定といふことを區別して、先づ路線の認定をして、さうして後道路の築造の手續をするといふやうな組立てにすることに法制局と内務省との妥協案が出来て、當時内務次官であつた水野先生の所へ持つて行つた所が、こんな複雑な事は困るぢやないかとえらく叱られたことを私は覚えて居ります。(笑聲)

さうやつて居る間に大體の草案が出来て、土木局長から各局の議を纏め、それから各省の議を纏めて居つたの

でありましたが、省内では、その當時丁度地方局長でありました渡邊勝三郎氏が、道路は國の營造物ではない、これは府縣なり市町村等の公共團體の營造物であるといふことで、非常に強い反對主張があつたのと、それから省外では鐵道省が軌道關係で、やはり軌道に關する法規を道路法に吸収することは餘り賛成しなかつた。それから逓信省は電信線電話線建設條例といふ、要するに一片の通知を以て道路は何處でも電柱の敷地に使はれるといふやうな規定を最後まで固執して居つた。それから電氣事業法等の關係に付ても、これを道路法に吸収することに付て非常に反對がありました。農林省は耕地整理法や森林法の關係もありました。それで内務省の當時の意氣込みは、要するに道路に關する統一的法規を作るのが目標であつたから、これは最後まで固執しなければならぬといふやうなことでありましたが、概ね法制局の審査が済み、それから内務省の方は、以前は地方局の意見がありました。次官の所で大體これは國の營造物であるとい

ふので方針を決定して戴きまして、省内はそれで大體議論が纏まりました。それから鐵道省もそれを譲つて呉れるし、それから逓信省も電氣事業法の方はそれを譲つて來たのでありますが、電信線電話線建設條例に付ては頑として最後まで譲らない。その時は内務大臣が後藤新平伯でありまして、逓信大臣が田健治郎男で、双方議論をやつて居る間に到頭其の議が纏まらないで、六年の暮の議會にはこれを提出することが困難になりました。その時は吾々は非常に落膽したのでありましたが、此の上は一年の餘裕が出來たので更に法案を練り直さうといふやうなことであつたが、その當時から既に陸軍方面の道路に對する要求は相當大なるものがありまして、殊に軍事道路といふやうなものを道路法の中に規定するに付ても非常に強く主張されましたので、六年暮の議會に提出することが困難になつた後には更にさういふやうなものゝ織り混せて、愈々七年の暮議會へ之れを提出しようといふ所まで行つたのでありましたが、その時には既に電信

線電話線建設條例を道路法の中に統一することが出來まして、道路法案を議會へ出してゐても異議がないといふことになりました。此の時代は寺内内閣が原内閣に代り床次さんが内務大臣で小橋さんが次官でありました土木局長も小橋さんから堀田貢さんに變つて居りました。逓信省側は内務省が道路の幅員を取つても其處に電信柱や電話柱を勝手に建てるやうなことではいかぬといふ主張に對して、頑としてそれに應じなかつたのでありますが、堀田土木局長と中西(清一)逓信次官と相談されました、到頭逓信省は中西次官の斡旋で遂に内務省案に同意することになつたのであります。

それで之を帝國議會に提出したのでありますが、大正七年の暮頃になると、道路熱といふものが次第に新しい問題として頭を擡げて來ました。また自動車なども追々殖えて來るといふやうなことで、非常に議會では歓迎を受けたのでありますが、法案を最初に提出した衆議院で一番問題になつたのは、憲政會側では郡制廢止といふ

とを既に見越して居りまして、郡道といふものを道路法の上に置くのはいけないといふので、最後までその意見で進んで來ましたが、遂に委員會に於てもまた本會議に於ても原案が通過したのであります。更に貴族院へ行きましたは、先程申したやうに私道を道路法上の道路に認定すればそれが直ちに道路法の拘束を受けるといふやうなことに付て、十分の懸念があつた。今度の法律案では之はどういふ取扱をして居るかといふやうなことが随分論議されましたが、結局そこは道路の認定と路線の認定とを區別した關係上、貴族院の方はさういふやうなことに付ても別に反對もなしに、随分長い間掛つて審議が終了し、終に可決を見たのであります。新道路法案が衆議院なり貴族院なりで非常に歓迎された一つの理由は我國に古くより所謂三大暴令といふものがありました。それは斬捨て御免の規則でありまして、その第一が河川法、第二が市區改正條例、第三が電信線電話線建設條例で、さういふやうなものは行政上の必要から管理者側で

色々な作用を致しまして、一切斬捨て御免で辨償主義を取らないといふ建前でありましたが、新道路法案に於ては、總て道路工事の必要より生じた私人の負擔に對しては、道路管理者側で成るべくこれを補償するといふ民權を尊重する意味の立法上の手心が加はつたので、貴衆兩院とも之に對し非常に好い感じを持つた。之がさしも多年の懸案であつた新道路法の通過を滑らかにしたのであります。政府委員も衆議院でも貴族院でも特にその點を力説したので新道路法が非常に歓迎を受けたといふやうなことになつて居ります。併し貴族院でも衆議院でも同じであります。道路の認定なり管理なりに付ては内務大臣府縣知事及び市町村長に非常に廣汎なる權限を任せて居つて、國道の存廢などといふ權限も内務大臣の一手で握るといふやうなことは權限としては餘り強過ぎるから、關係各省や貴衆兩院は勿論のこと、民間の學識經驗者を集めた道路會議といふやうなものを作つて、その會議の意見を十分に聽いた上で道路法を運用して貰ひた

いといふ希望決議が附いて貴衆兩院を通過したので道路會議と云ふものを設置したのであります。言ひ換へれば非常に民權尊重と言ひますか自由尊重と言ひますか、今日の新體制の逆を行つたやうな當時の状況でありました。が、兎に角さういふやうなことで道路法の通過を見て、大正八年の四月十一日之を公布し九年四月一日より之を施行することになつたのであります。

ところが、道路法は出来ましたが、非常に多くありまして、する各種の勅令なり省令なりが非常に多くありまして、道路法は技術上重要な事項は皆之を命令に譲つて居る關係上、大正九年四月一日の施行期までは非常に忙しく、屢々道路會議を招集しまして、道路構造令とか、或は街路構造令とか、その他いろいろな附屬命令を澤山審議致しました。その際には近藤虎五郎博士、牧博士、三浦、佐藤、谷口といふやうな方々の非常な御助力を得たのであります。道路會議で道路構造令や街路構造令の草案を審議する場合に於ても、工兵出身の貴族院議員の山根男爵

は道路の幅員に付て種々の要求がありましたし、參謀本部の側からも道路の幅員、或は陸橋や隧道の高さ橋梁の荷重等に付ても相當強い要求があつたので、吾々は餘り要求が過大ではないかと思つて居りましたが、今日になつて見ると、その爲にその當時私共が考へて居つたものよりも寧ろ時代の要求に合ふやうなものが出来たと思つて、非常に困つた事だと思つて居つたことが、今日では却つて逆な結果になつたやうな風に考へて居ります。

そこで愈々道路法が制定された所で、道路の改良計畫が立たなければその意味を成さぬ此の際須らく道路改良の根本計畫を樹立しなければならぬ。それには由來道路の如くその惠澤を現代人から子孫にまで及ぼすやうなもの、必ずしも租税を以てこれを作る必要はない。寧ろ公債の財源に依つて之を築造しその負擔を子孫に分つといふやうなことにして行つたら宣いではないかといふやうな主張が強くなつて來たので、堀田土木局長は原首相に直接談判に行かれるやうな熱心さであります。愈々議

が熟して大正八年の暮の議會に、所謂道路公債法といふものが、生れることになつたのであります。これは牧博士が主として計數の調査に當つたのであります。はつきり覺えて居りませぬが、國道府縣道等の主要道路と、大都市の街路とを高速重量車輛の通行に適當するやうな規格に改良し、而してその金額は非常に口調の好い二億八千二百八十萬圓といふ數字が出たのであります。道路公債法も兩院を通過し、大正九年八月十一日より施行を見たのであります。その道路公債法に依る第一次の事業として施行致しましたのが、京濱國道と栗橋の橋梁でありましたが、その當時京濱國道改修計畫案が議會に出ました場合にも、或る方面からは、こんな龐大な規格といふものは、日本の國力に相當しない、寧ろ贅澤な施設であるといふやうな意見があつた位でありましたが、今日から見ますと一本では足らぬ、モウ一本複線を付けなければならぬといふやうな狀況になつたことから見ますと、その間に非常に日本の國力の増進したといふことに

付て、深い感慨を覺えるのであります。それからモウ一つその次にやりましたのが阪神國道であります。この阪神國道に對するエピソードとして非常に面白い事は、阪神國道を十二間幅にしようといふのが大阪府の池松知事の意見でありました。それから兵庫縣の有吉知事は、十五間幅にしなければいかぬといふやうな意見でありました。大阪と兵庫とが兩方川を挟んで對抗して、なかなか意見が纏らなかつた。その當時内務省の首腦部の意見では、阪神國道は十二間にして軌道を敷設せずとして計畫した所が將來或る時代に其處へ軌道を許すといふことになる。飛んでもない事になる、阪神間といふものは將來人家が連擔して市街續きとなるのであるから、そこに三間文幅員を擴張して十五間幅とし、豫め軌道の特許した方が宜からうといふことで、漸く大阪府知事も兵庫縣知事と内務省の意見に一致したのであります。その時に軌道を經營しやうと云ふ希望者を搜した結果、今商工大臣である小林一三氏に三間幅の土地買收費を出して貰ひ

たいといふことで交渉しました結果、成程阪神國道の兩側は將來人家が連檐するから軌道が要る、と云ふので之を承諾した。それで遂に今日の阪神國道が十五間幅になつて、其の上に軌道が敷設された譯であります。今阪神國道を旅行して見ますと、あんなものはない方が宜いといふ意見が多いのであります、吾々も今日から言へば

ない方が宜いと思ふのであります、その時の情勢から言へば、十二間幅に決り掛けて、三間幅の軌道を敷いて三間幅の擴張をしたといふことは、内務省としてもそれから兩府縣知事としても非常に英斷であつたと思ふのであります。それに今日では軌道が邪魔になるといふ位な交通状態となつて、このやうな大變化を見たといふことは、やはり國力の伸張の結果ではないかと思ふのであります。

色々申上げたい事もありますが、餘り一人で話すのもどうかと思ひますので、私はこの程度で失禮致します。

水野 佐上君が只今お話の通り、道路法制定並に施行當時

の道路課長をやられたのであります、その後の道路課長となられたのが松本君であつたのです。松本君はその當時土木局に於て、道路のみならず港灣の方にも關係があられたやうであります。その當時の道路に關しての御感想があればお話を承りたいと思ひます。

松本 私は佐上君の洋行された留守師團長といふやうな格で道路課長を務めた譯であります、丁度一年位であつたと思ひます。兎に角佐上君が道路法の生みの親であつて、虎の子のやうにして居られる道路法だから、私はそれが立派に出來た後を留守番したのであります、隨つて私の立場は多少遠慮があつて、自分の物として何でもやつて行くといふやうなことも出來ず、一寸そこに控へ目にしなければならぬやうな感じが相當あつたのであります。佐々木君がその時丁度主任であられて、私が課長になると直ぐに庶務課の方へ廻つて、田中君はその時分はまだ屬で居られたのであります、引續いて佐上君の方針に依つて來たのであります。隨つて私が一年間仕事

をしましたけれども、功績として遺るものは何もなし、たと遠慮しながら佐上君のやられたことを出来るだけ伸ばして行くやうに努力したといふことに盡きて居るのであります。ですから別に感想といふ程のこともないし、自分として自慢話をする程のものもないし、取立て、申上げることはないであります。たゞその當時は、今佐上君のお話の中にもあつたやうに、法制は完備したけれども、これを實際に行つて行き、道路の改良をどうして行くかといふことが直ぐ起つて來た問題であつたのであります。日本は餘りに人間を作ることばかり汲々として教育は非常に盛んであるけれども、吾々の生活に非常な關係の深い道路といふものが閑却されて居つて、まるで野蠻國の道路のやうであるから、この際道路熱を起さなければならぬといふやうな時機であつたのであります。さういふ譯でありましたから、道路改良會も佐上君の道路課長時代に、水野閣下その他の非常な御盡力で出來て、この會なども一つの道路熱を起す機關としてその當時活

動したのであります。私が覺えて居りますのは、長野縣へ出掛けて行きました、丁度稻葉健之助君が内務部長であつて、赤星典太氏が知事でありましたが、全縣下に道路熱を起すといふので、道路協會の事業としてあそこへ行つて演説したのであります。まだ舗裝もしてない埃の中を自動車飛ばして行つて、さうして自動車の上で演説をするといふやうなことがその當時あつたのを覺えて居ります。それから道路熱を起すといふので、佐上君の時代に東海道を自動車を通つたのでありましたが、私の時には山陽道といふので、道路改良會の副會長であつた石黒さんが大將で、牧博士や私なども一緒にお伴をして、神戸から下關まで飛ばしたのであります。田中君もその時行かれたと思ひます。私共は初め自動車の幌をめくつて、一番最後の車に乗つてピラ撒きをして行つたのですが、夏の暑い時でしたので、私は上着を脱いでクレープのシャツの直ぐ上にレーンコートを着て、田中君も同じ事だつたと思ひますが、まだ山陽道が舗裝されて居

ないし、非常な埃を浴びて岡山に行きました。丁度中川さんが知事をされて居りましたが、岡山の女學校で晝食を御馳走になつたのですが、先發の十何臺かの車は既に着いて居りまして、私達が顔を洗つて晝食の會場に案内されて行く時に、私や田中君などは、あゝ君達運転手はこの下で飯を食つて呉れと言はれたのを今に於て覚えて居ります。そんなに眞黒になつて行つた。話が横道に入りますが、それから内務省に歸つて來て食堂でその話をした所が、口の悪い者が、運転手は随分ハイカラだから君達は顔が黒いからトラックの運転手と間違へられたのであらうといふやうな悪口を言はれたのでありますが、これなどは非常に大きな道路宣傳であつて、國民の道路熱を起すといふ運動であつた。そんなやうな事は私の道路課長の時にしたのでありますが、法制上の事に付ては佐上君の時に立派に完備して居りましたし、何もこれを改めるといふやうなことはなかつたのでありますが、たゞ私が道路行政としてその當時感じたことが一つあるの

であります。それは道路の主管の官廳が内務省の土木局である爲に、法制の表に現はれたことから見ましても道路の構造とか、規格とか、所謂道路土木といふことは非常に完備して居るけれども、道路交通とか、即ち道路交通の定義、例へば道路上の電車、或は馬車——その當時荷馬車が相當ありましたが、その馬車や或は自動車或は無軌道電車さういふやうな道路を利用して吾々の生活の必需品の運搬に當るといふ、また人間が交通に利用するといふ、この道路交通といふことに付ての主管官廳が遞信省であつた、官制の上では遞信省に道路上の交通といふことに關係する所の一項目がありましたのですが、それではどれだけさういふ方面に關心があつたかといふと、殆ど行政上のさういふ方面に付ての研究調査も出來て居なかつた。それでありましてから私はあの道路法の實際運用に當つて感じたことは、これはやはり構造、規格といふことの他に、道路交通といふことに付てもつと徹底的に、さうして構造規格と關聯して、一つの行政形體

といふものが出来ぬといけないではないかといふやうなことを感じたことがあります。偶々その當時道路の改良講習會が帝大の講堂でありましたので、私も講師の一人として道路法の講義をしたのでありますが、その時に道路に依る小運送といふものに付ての話の講義の一項目に入れて——小運送に付ては鐵道省がやつて居りましたが、材料を貰つて來て講義したことがあることを覚えて居るのでありますが、その點を私は道路行政として感じたのであります。これは行政上の主管廳がさういふ風に分れて居る爲に、自ら一貫した道路行政の完全なものにならぬ結果になつたのではないかといふことを感じたのであります。その他は取立てゝ申す程のことでもありませんから、雑談になつた時に思ひ付いた事を申し上げさせていただきますと思ひます。

佐上 僕が留守中に、國道の直轄工事の規定を松本君がやりましたナ。

松本 さうくそれをやつたネ、あれは已むを得ざる大勢

だつたからネ。

岡田 軌道法の出来たのは……

松本 軌道法も私の時にやりました、あれは田中君と二人でやりました。

水野 松本君の今のお話で思ひ出しましたが、東海道を自動車で視察したのはあれは道路改良會の仕事でしたネ、私は慥かあの時は朝鮮の政務總監であつて、丁度上京中でありました。改良會が斯ういふ計畫をやるから私にも参加しろといふことでしたが、私は用事があつて行かれなかつたが、大磯まで一緒に参りました、それで大磯の瀧龍館で神奈川縣知事の御馳走になつて私は直ぐ歸京しました、その時の副會長は石黒五十二博士でありました、石黒君が晉頭を取つて東海道を視察されました。その事に付て斯ういふ話があります。私が東京へ歸つて來てから二三日して、この宣傳部隊が歸つて來たのです、その當時高橋是清さんが大藏大臣でありましたが私が高橋大臣に會つた時、君は道路改良會とかの會長をして居

るさうだが、先日君は大勢引連れて自動車を連れて東海道を飛ばしたさうだが、あんな事をされては困る、あんな事をするとは地方では道路熱が益々盛んになつて、豫算をどん／＼要求して来るから困る、あんな事は將來止めて呉れ給へ、と斯ういふ小言を受けたことがあります。

その時に、私はイヤ大臣などは道路のことは餘り熱心でないから、少し國民の聲を揚げて、内閣に迫つて道路改良の費用を出して貰はうといふのであゝいふ企てをしたのであります、これから先も私はあゝいふ事は宜いことと思ふから止めようと思ひませんと言つたことがあります。——廣瀬さん何か……

廣瀬 私は已むを得ない事情があつて、一寸失禮させて戴きたいと思ひますので……

水野 それではこゝで食事をして、それからまたお話願ふことに致しませう。

(晚餐)

水野 それでは引續いてお話を願ひます。道路法制定當時

路政座談會

竝に道路改良の大計畫をやられた當時のお話は、佐上君松本君等より承りましたが、その後政府の非募債主義の爲に、前の道路計畫は中止の已むなきに至つたのであります。それは昭和五年の頃、即ち漢口内閣の時でありまして、道路改良費が三百三十一萬圓位に減額せられたのであります。この時の局長は三邊君と記憶しますが、道路改良費の豫算に付て非常に御苦勞になつたやうであります。道路改良會に於てもこれを聲援する爲に、濫澤子爵と、山田英太郎君が會を代表して、總理大臣竝に大藏大臣に、道路改良費の削減に付て反對意見を陳情に行つたことがあります。その時の事に付て三邊君にお話を願つたら宣いかと思ひますが、どうか三邊君……

三邊 只今水野先生からお話がありましたやうに、私が丁度土木局に居りましたのが、昭和四年の半ば頃から六年の初め頃でありまして、井上準之助さんが大藏大臣で、丁度金の解禁前後でありましたので、非募債主義と言ひますか、國も地方も徹底的に財政の整理緊縮をやつた時

代であります。それで内務省の中でも豫算の一番大きいのは土木局でありますので、随つて風當りも一番強かつたのであります。豫算は削減せられ、また實行豫算を作つて更にそれを小さくするといふやうなことで、絶えず防禦的の立場に立たせられたのであります。現状維持の出来なかつたことは申すまでもありません。たゞそれにして何かその間に事業をやつて行きたいといふやうなことから致しまして、今この席に居られます岡田君あたりともいろ／＼相談をしたのであります。道路に付ても大體同じだつたと思ひますが、河川などに付きましたは地方費に相當差引かれ、事業の繰述べをやらなければなりませんし、また府縣等に於ても、國費を減らす關係から地方費の負擔を大きくするといふことでも、それでも賄ひ切れなかつたのであります。さうして居る内に物は窮すれば通ずると言ひますか、だん／＼世の中が不景氣になり、失業者が非常に増加する、これでは何とか對策を講じなければならぬといふやうなことから、

失業救濟事業をやらなければならぬといふ機運に向つて参りましたので、失業救濟事業としては道路が一番良い、勞力費が最も多いので、道路改良を失業救濟事業としてやらうではないかといふ議が起りまして、それで國道を全國に互つて、失業救濟事業としてその改良事業を計畫致したのであります。その爲に——何時でも豫算を組む場合は同様かと思ひますが、大藏省へお百度を踏んだ譯であります。丁度社會局でも失業救濟事業を計畫せられました、よく社會局長官と大藏省に一番乗りの競争を致しまして、打突かつては笑ひ合つたことではありますが、そんなことで失業救濟事業として國道改良の全國的の仕事が始められたのであります。議會へ出ましても仕事そのものには無論反對がなかつたのであります。國で直營するといふことに付きましたは、衆議院の豫算總會でありますか、相當質問がありました。何か違法であるやうな御質問をなさつた方がありましたので、私が道法の規定からそれは違法でないといふことをお答へしま

した所が、政府委員は法律上の條文を盾にして、議員の言論を封ずるといふことは怪しからぬといふことで、閉口したことがあります。また丁度その時の國道改良の人件費は約百萬圓に近かつたかと思ひますが、相當數の技師、技手が計上せられて居つたのでありますが、中で勅任の技師が一人計上されましたので、貴族院でしたか、委員會の席で、何故この勅任技師が必要かといふやうなことを聞かれて、一通りの説明を致したつもりでありましたが、何としても御満足を得なくて困つた事がありました。當時の國道改良は失業救済といふやうな見地から致したのでありますから、その後に行はれたものとは多少路線の選定や何かと違つて居るかも知れませんが、大規模に國で國道工事を行つたといふのは、或はこれが初めてではないかと思ひます。これ等の立案に付ては、この席に出席して居られます田中代議士あたりが不眠不休で御苦勞なされたのでありますが、~~幾~~だそれまでは土木出張所に於ては、國道の工事といふものは全般的にやつ

て居らなかつたやうでありまして、國道工事を各出張所で行はれるといふことになる、その人的組織に付ても當時の技師をはじめ非常に苦勞をせられたことでありまして、道路の改良工事は府縣が非常に經驗を持つて居りますので、府縣の土木當局と圓滿なる連絡を取つて、遺漏のないやうにやりたいといふことで進められた譯であります。私の思ひ出は大體そんな所であります。

水野 道路の鋪裝をするに付て、日本ではまだその經驗がなく、鋪裝をする工夫に適當な者が得られないので外國から——その時はアメリカと言つて居りましたが、アメリカから工夫を雇つて來たらどうかといふやうな話もあつたやうに私は記憶して居ります。さうして震災後の復舊事業に付て永代橋——あれは慥か外國人が設計したと思つて居りますが、その當時さういふやうな話があつたと記憶して居りますが、道路の鋪裝その他技術上の問題に付てはいろいろ御經驗若くは御苦心をされたことと思ひますが、その技術上の方面から一つ青山さんに、お話

願ひたいと思ひます。

青山 實は私は今日はお話をお聞きしようと思つて來たのですが、舗装に付ては私より藤井さんの方が御經驗があると思ひますが、舗装のたん／＼出來始めたのは、何と言つても震災後のことと思つて居ります。先程水野さんからお話がありましたやうに、試験舗装は本郷でしたのであります。それからだん／＼木塊の舗装が入つて來、それからアスファルトの舗装が入るといふやうに移つて來ました。外國人の工夫を備ふ備はぬといふやうなことが問題になつた時分は、私は主に河川に携はつて居りましたから、これは藤井さんが一番詳しいと思ひますから、藤井さんからお願ひ致します。

水野 それでは藤井さんどうか……

藤井 それでは私より知つて居る範圍のことだけ申上げます。大正十年の頃であつたと思ひますが、東京市が路面改良事業を計畫した時にアスファルト舗装をやらうといふことになつて、その時にアメリカの技師で、トリニダ

ット會社からバーレンティンといふ技師、それからメキシコアスファルト會社からレツプコー、日本石油の方からポールスといふ人とシューメーカーといふ人がやつて來て、その連中が大體東京市のアスファルト舗装を初めてやつたのでありますが、一番初めにやつたのが上野公園に行く御成街道の裏通りで、御徒町の通りをやつたのであります。これは出來上つて六箇月経つたらモウ白茶苦茶に壞れてしまつた。それ程初めは經驗もなく技術もなく、たゞ技師が一人來ただけではうまく行かないで失敗したのであります。その次にやつたのが東京市の本郷通りとか、今の議事堂の横の内幸町の通りとか方々をやりましたが、この頃になると非常に上達してよく出來ました。私が明治神宮の外苑の工事をやりましたが、この時は日本石油がやりまして、ポールスとシューメーカーと二人でやつて來たのであります。それに引續いて阪神國道をやつたのですが、ポールスなどは非常に熱心なエンジニアで、外苑で工事をやつて居る時なども、朝六時

頃やつて来る、さうして午後夕立などが来さうな時には、今に夕立が来るから工事は一時中止するから休めと日本石油の佐々木君なんか言ひますと、俺が居なくては舗装工事は出来ないヨといふので、ローラーを掛ける時に雨の降る中を最後までやつたのであります。それでシューメーカーといふ人も朝六時前に来て、さうして仕事場でサンドイツチやら林檎を食べながらやつたのであります。それからパーレンタインといふ人は芝浦のアスファルトの工事を受持つたのであります。夕方四時半頃機械が故障になつて、幾ら直しても修繕が出来ない、六時半頃まで修繕してもどうしても直らない、それでは明日は工事を休もうといふ時に、パーレンタインは横濱に居つたのであります。横濱まで歸つて何か持つて来て、何でも夜の九時過ぎにやつて来て、その晚一時か二時頃まで掛つて直して、明る日の仕事には支障がないやうにやつたのであります。さういふやうに所謂責任觀念を植ゑ付けられてスタートしたので、日本の道路舗装工事は

非常に發達したのですが、初めの四年間は外國の眞似であつたのであります。初めは東京市内ではシート・アスファルト、シート・コンクリート、木塊などをやつて居つたのですが、多分昭和三年頃でありましたが、乳劑が入つて来てから工費は三分の一位に減りました。たゞ交通量の多い所にはそれを使へないのでありますけれども、中級の所ではそれを使つて、その後日本には乳劑會社だけでも二十位出来て、今日大部分の舗装が乳劑になつて居ります。セメントコンクリートの方で申しますと、大正十一年頃でありましたが、今の丸ビルと中央郵便局の横にコンクリート舗装をやつたのであります。それを普通の鐵筋コンクリートの建物に使ふやうな一・二・四のコンクリートをやつたのであります。これが六箇月位で目茶苦茶に壊れてしまつたのであります。コンクリート舗装の壊れたのは、丁度日本の瓦が壊れたやうなもので、もとの砂利道よりも始末に負へなくなつてしまふのであります。それでコンクリート舗装は駄目だといふ

ので、四五年その儘になつて居つたのでありますが、外國でもその頃は餘り普及して居なかつたやうであります、その後松本さんの行かれたスペインの會議の時に、初めてコンクリート舗装が出来るといふ話があつたのですから、歐洲にはセメントの舗装は一つもなかつたのであります。アメリカが世界大戰の末期からコンクリート舗装をやり出したのですが、セメントで道路の舗装が出来るのかといふので、日本でもやつたが六箇月で減茶苦茶になるやうな舗装でありました。その後歐洲でもコンクリート舗装をやり出したが皆失敗した。これは鐵輪の車が非常に多いので、アメリカで成功した舗装が歐洲では成功しなかつたので、今度は鐵輪にも堪へるやうにといふので、日本で謂ふ膠石舗装が、歐洲でもイタリアで一番先に行はれたのであります。それで昭和五年頃から今度は鐵輪にも堪へるコンクリート舗装を研究して、さうして今日まで來て居るのであります、日本でも失業救済の道路工事から、コンクリート舗装が非常に發達

して來て、今日になつて來て居るのであります、最近また材料が非常に拂底したので、今度は材料の節約工法をやらなくてはいけないといふので、それで試験的にやつたのが昭和十一年からであります。昭和十一年にそれまでのコンクリート舗装のセメントの約四割位で濟むやうな舗装をやりしましたが、その四年前にやつたのが殆どクラックなしに今日まで來て居りますから、相當試練を経て居るといふので、今度はその方法でやらうとして居るのであります。それから今度はアスファルト舗装も材料が少くなつたから、これを節約する工法をやらなくてはならないといふので、これも昭和十二年からであります。試験舗装をやつて、今ではアスファルトが五割五分位で濟むやうな舗装まで漕ぎ付けて居ります。これは東京市内の相當交通の多い路線でありまして、滿鐵のエトアール邊りがさうであります。それで今日ではアスファルトの節約と、それからコンクリートの節約で以て舗装をやらうといふので、全國的に試験をやつて居ります

が、これはセメントの代りに三河でも使つた三州たゞきのやうな天然の土で固めるといふ工法であります。その他に少しづつ全國で各局部々々で新しい材料でやつて居るではありませんけれども、これはまだ推奨するほどになつて居ないのであります。今までの舗装の變化は大體さういふことであります。

水野 初め外國人に來て貰つたのは、日本の技術がまだ進んで居らなかつた爲ですか。

藤井 まだ經驗がなかつたからですが、明治四十二年に日本橋白木屋の所の四つ角をやつたことがありますが、その後はやらなかつたのですが、大正十年頃愈々やらうといふ時に、アメリカはアスファルトを賣らうとして、そのアメリカのアスファルト會社からセールスマンとしてエンジニアを寄越したので、それを利用したといふ譯です。

水野 今ではさういふ必要はないでせうネ。

藤井 今では暹羅や支那に行つて指導して居る位です。

青山 私が外國から歸つたのは明治四十五年であります。が、あちらのホフメントコンパニーといふ所で働いて居つたことがあります。歸る時にそのホフメントのアスファルトブロックを貰ひに行つたのであります。日本で斯ういふのをやりたいと思ふがどうだらうと言つた所が、どうもお前の國ではこれはまだ早いだらうといふことで、見本だけ貰つて歸つたのであります。成程明治四十五年では一寸日本の國力としてはアスファルトブロックで舗装することは一寸早かつたでせう。

藤井 一寸申上げて置きますが、日本でアスファルトを使つたのは明治十年であります。これは由利公正といふ方が東京の府知事であつた時で、あの人は非常に進歩的な方で、この方が試みたのであります。アメリカでアスファルト舗装をやつたのは明治八年で、それはフィヤデルフィアの市役所の前をやつたのですが、明治十年既に日本でもやつたのであります。それは上野公園の内を舗装しようといふので、アスファルトを秋田から取寄せて

やらうとしたが、釜に火が入つて火事になつたので、これは危いといふのでその儘になつたのですが、その残りのアスファルトで今の神田の昌平橋の橋面を鋪装したのが日本の最初です。アメリカより二年しか遅れて居ないのです。明治の初年既にパリーでやつたけれど、それ程早くないが、これが日本のアスファルトでやつた最初です。

水野 道路法の實際的の運用に付てのみならず、道路の事に付て終始一貫して御盡力下され、殊に道路改良會の發行する雜誌に付て非常にお骨折になつて居る田中好君に何か御感想を……

田中 私は代々の局長並に課長に事へて働いて居つたので、一向申上げるやうなこともないのであります。法制に付ては堀田さん、佐上さんの非常な御盡力の賜で、吾々はその御方針に基いて働いたのであります。道路事業を實際やつて行くといふことは、佐上さん以後に起つた問題で、道路會議に附議された改修計畫もプランは立つ

て居りましたけれども、實際政府が金を出さない、せめて計畫通りでも事業をやつて行きたいと思つて大藏省へ再三行つて頼んだが、一向道路熱が擧らなかつた。道路改良會の助成も無論大きい力があつたのですが、兎に角緊縮時代で、如何に道路改良と經濟的價值との比較表を持つて行つても相手にして呉れない。今夜はおいでになつて居りませんが長岡さんが局長時代でしたが、如何に局長が頑張つても大藏省で承知しない。結局三百五十萬圓位に減らされてしまひました。それで大藏省の局長に會つて、局長これぢや舊債を償還するだけで何も役に立たんではないかネと言ふと、イヤそれで仕様がなないだ、まア俺の事を繰延べ削減居士といふ名前を付けて呉れとまで言つたことを覚えて居ります。(笑聲)

餘り堅い話しをして仕方がないのですが、私は三邊さんに御厄介になつた事件が一つあります。

三邊 それは言はないで呉れ給へ。(笑聲)

田中 それは佐竹といふ人が交通論とかいふ雜誌を編纂し

て居つて、私に道路の事を何か書いて呉れないかと言つて注文したので、だん／＼考へて見ると、どうも豫算を減らされて續に觸つて仕方がない、道路改良會の雑誌に書く迷惑することが多いから、この雑誌なら宜いだらうと思つて、現内閣に失業對策なしといふ見出しで、道路事業を閉却して居るといふことでさん／＼悪口を書いた。ところが三邊さんから呼び出しが來て、オイ大變な事をしたではないかと言ふので、どういふ譯ですかと言つて聞いて見ると、お前は斯ういふことを書いたさうだが、それが政務官會議に問題になつて居る、大臣も逆も怒つて居る、どうするのだといふことでお叱りを受けた。それからさう斯うして居ると、安達さんが大臣で官邸に來いといふので行つて逆も叱られた。私は一札取られたのであります。(笑聲)

それから次田氏が地方局長の時代でありましたが、土木局の道路課の全能力を發揮して一年にどの位の事業が出来るかといふ質問があつたので、こんな緊縮ばかりを

唱へて居る内閣の時に、そんな事を言つても駄目ですよと言ふと、イヤ自分には少し考がある、考があると言つても三百五十萬圓出すか出さぬで慌てゝ居るやうな内閣ぢや逆も問題にならぬと言つたのですが、三邊さんも御承知の通り、その頃失業對策やはり道路でやつて行かうといふことであつたので、吾々は技師の連中と相談して見て、六千萬圓位が適當であらうといふことで、それから次田氏にそれを言ふと、何だ偉さうに毎日やつて居つて一年掛つて六千萬圓の仕事しか出来ないのかといふ話なので、この内閣が六千萬圓の金を出せと聞いたらびつくりしてしまふだらう、そんな金は決して出ないでせうと言ふと、出ることは大丈夫だ、僕が引受けるから心配するナと言つて別れた。ところがそれがどういふ風の吹き廻しか失業救済事業として、兎に角六千萬圓程の道路事業を一年にやつて呉れといふことになつたのです。が、それから現在に至るまで、大抵一千万圓を上下して居る豫算を取つて居るが、それまでの道路事業に携つて

居る者は實に憐れなもので、府縣が五萬圓の道路事業をやるといふのに、五百圓の補助をする、さうして新しく申請の道路工事に對しては補助の出來ないといふ通牒を局長の名前で出したのであります。ところがそれが解つて、慥か安達さんが内務大臣の時だと思ひますが、地方局長が、府縣に對して五百圓か、酷いものになると二百圓位補助をして、何萬圓といふ工事をやらせるといふことは、地方財政を紊亂する本を與へる、併し過ぎ去つたことを今更言つても仕方がないから、借錢の辨償方法を考へたら宜からうといふことで、そこで計算をやつて見ると、兎に角政府が出さなければならぬ金が四千何百萬圓といふ金であつた。それで約二十年賦にして府縣に返へさうではないかといふ案が立つたのですが、その時も非常に叱られたのであります。

それから一つ痛快な感じを持つたのは、若槻さんでしたが、何とも永年に互つて借錢を出した、これは地方財政を苦しめる原因だ、えらい事をやつたものだと言はれ

るので、またお叱りを受けるのかと思つて居ると、その後でどういふ事を言はれたかといふと、斯ういふことをやつたが爲に國道が良くなつたのだから、悪いと言へば悪いが良いと言へば良い、借錢を辨濟することをうまく考へたら宣いぢやないか、斯う言はれて、成程大臣になれば偉いことを言ふものだと思つたが、それまでは叱られ通してありました。(笑聲)それからだん／＼景氣が好くなつて來て、唐澤局長の時代には、國道一本なんかけちなことを言ふナ、二本でも三本でも宣いではないかといふやうな譯で、今現に京濱國道は並行線に改良せられて居るといふやうな譯でありまして、洵に結構だと思ひますが、昔の事を思ふと非常に憐れなものでした。私

はこれ位のこと……

佐上 遞信省に叱られたのは何だつたかなア。君が……
田中 あれは松本さんの言はれて居つた持論を實行しただけです。原因は松本さんにあるのです。

松本 何でしたか。

田中 内務省の土木事業は、土木の施設を維持して居るばかりで、その道路の上の働きといふものを監督して居ない。それはいかんといふ持論でしたね。それを私が實現すべく……

松本 君が逓信省に當つたの。

田中 さうです（笑聲）上を走つて居る自動車ですな、あの小運送も道路法の範圍だといふ理窟を附けたのです。あの道路法にはその點が巧く書いてあるのです。道路及び交通と明瞭に書いてある。それに理窟を附けて……（笑聲）道路法に書いてある以上は、逓信省の方は権限を持つてゐない。隨て逓信省の命令を聽く必要はないといふことを雑誌に書いたのです。

松本 雑誌に書いたんですか。

佐上 それが政務官同志の問題になつてね。

田中 官報で譴責を受けました。（笑聲）雑誌だけならあんなにならなかつたのですが、徳島縣知事だつたか、一體どちらの訓令を守つたら宜いのかと電報を打つて來て、

（笑聲）愈々困つて、噴嘩になつたんです。

水野 昭和六七年頃に、私が東京市近郊の道路を見て貰いたいといふので見に行つたことがある。土木局へ集まつて、私初め改良會の理事などが寄つて見たのですが、埼玉縣、千葉縣に入つて見ると、中々良い道路が出来て居る。一番道路の悲運の時期は、先程どなたかお話のあつた國費が三百五十萬圓かに減らされた時で、その後は又段々道路の方面に相當の金が出て、相當良い道路が出来たのを見て、大變愉快に思つた。これはどういふ譯でなつたかといふと、失業救済の爲に金を出した。産業振興といふ方面から金が出たといふことを聞いて居つた。何でもその時は六千萬圓位國庫から出たといふことを聞いたのですが、大變に喜ばしく思つたのです。その時の局長は慥か唐澤君であつたやうです。唐澤君に次で廣瀬君その次は岡田君かね。

岡田 時局匡救の仕事は廣瀬局長位まででせうね。

田中 湯澤さんの時からでせう。

岡田 湯澤さんの時から始まりまして、唐澤さんの時が一番最盛期です。私の時は廣田内閣時代で、亡くなつた馬場さんが大藏大臣で、準戦時體制などといふことを議會などで言つて居られた時で、比較的土木の方には恵まれた時でございます。私の所で土木五ヶ年計畫を樹てその中に道路改良五箇年計畫なるものを作つて、一億何千萬圓だか、大分大きな風呂敷を擴げたのです。五箇年計畫

は閣議で決めるところまでゆかなかつた。又河川、港灣の方は相當認められたけれども、道路は關門隧道の調査費三十萬圓、他に國道の繼續費が四五本通つたことを記憶してゐる。時局匡救土木事業といふものは、救済の爲の金を唯やる譯に行かぬから、仕事をさせるのだといふことで、隨て道路などを良くするといふことは主たる目的ぢやない。金をやるのが第一義で、道路などは單なる手段であつた。そこで随分無理な道路が方々に出來てしまつた。行詰りの道路や妙な道路が出來て、馬場さんが勸業銀行總裁の時に秋田縣へ行つて、兎に角道路が遊廓

の所までで止まつて居るといふ(笑聲) 遊廓の所まで附けるやうな道路を拵へて、一體縣當局は何をして居るのだといふ大變な御叱りだつたといふ話です。時局匡救事業は、大概そんな調子で、中途半端で已むを得ず終つて居つたと思ふのですが、さういふやうなことで、道路の仕事には馬場さんは理解がないといふことになつてしまつたのです。

夫れから道路政策のことについて一寸所感を述べたいのですが、私も永く土木局に御厄介になつてゐたので直接道路行政にたづさはつてゐたことは極めて短いのですが、土木局に居た關係上間接には種々の時代に關係してゐましたので、いつも日本の政治家には計畫性がない科學性がないといふ感じがあつて憤慨をしてゐたものでした。政治家に本當に道路に理解があり道路行政に理解があれば、從來の様に色々看板を掲げて産業道路だとか時局匡救道路だとか失業救済道路だとか色々道路にレツテルをはる必要はないのですが、從來の政治が國民に對

する人氣を把へることが第一義で道路政策などいふことはいつもその爲の手段であつたように思はれるのです。

一國の國防とか産業とかさういふことと交通との關係それと道路といふことを科學的に計畫的に政治家が考へて國力の充實を圖るといふことがどうも日本でははやらな
い。尤も今は企畫院などがあつてしきりに經濟の計畫などをやつてゐますが、我々の土木局時代までは、どうしても政治の計畫性といふか科學的に基礎を持つた政治の運営がなかつた、乏しかつたといふ所感がある。ヒツトラーが政權をとつて第一に何を爲したか、ムツソリーニが政權をとつて第一に何を企てたか。獨逸の道路などといふものは今日實に驚くべきものである。ロシアでも今日仲々道路に力を入れて見事な道路が出来てゐるといふ。あの國民の經濟も國家の財政も最も苦しかつた獨逸などが、勞働者を最有効に働かしてどしどし道路を造つて國防と産業の基礎を築いたなどは餘程手本とすべきだと思ひますね。

水野 あのと土崎に行く道路は、十間幅の廣い道路に拵へたが、其處は人も通りはしない、車も通りはしない。あんな道路を造るからいけないと、勸業銀行總裁の時に來て、それを高橋大藏大臣に言つたのです。高橋さんがそれを又私に向つて、どうも君、土木局は何だね、餘計な要りもしない道路を造るね。秋田縣の例がそれだ。馬場が僕の所へ來て、人も通らぬやうな道路を造つて居ると言つて居つたがと僕に言つたことがある。馬場君は道路には餘り熱心でなかつたやうだね。

青山 私は馬場君とは大學の同窓ですから、勸業銀行へ説明に行つたことがあるのです。圖面を持つて、斯ういふ譯だから、此處で止まるのではない。先に伸びるので。今は金がなくて止めて居るので、これは逆も良い道になるのだと説明に行つたことがあるのです。丁度翌年秋田に参りまして、どうしたと聽きますと、又石油が出るやうになりまして、それに續いていろ／＼石油に聯關した工場が出来まして、あの道はずつと堀割を通つて向ふま

で出来て居ります。

佐上 土崎までは行かぬでせう。

齊山 もつと手前ですが、その時はまだ行詰りになつて居つたのです。

水野 初めは行詰りでも、今は中々有用な道路ですね。その當時唐澤君は最も恵まれた時の土木局長であられたのですが、一つお話を……

唐澤 今座長のお言葉のありました通り、私は非常に不當利得をしたので（笑聲）土木には從來何も縁故がなかつたものが、丁度五・一五のあと、時局匡救といふ名前ですが、農村を救済すべしといふ聲が、政治の非常に大きな題目になつて來て、農村を救済するには、津々浦々に金を落すやうにしなければならぬ。それには土木事業が宜からうといふので、土木事業が選ばれた。その時に私は土木へ参りましたから、あの當時は、恐らく土木の黄金時代の最も大きな一つであらうかと思ふのであります。さういふ恵まれた時代でありますから、苦心談とい

ふやうなものは殆どないのであります。大藏省に豫算を要求すれば、大體認めて貰へるといふやうな、非常に土木全體として、又吾々個人として恵まれた時代で、景氣が良かった。それは此處に出て居ります數字に依つて明瞭に物語られて居るやうな次第で、別段面白い話もないのであります。唯當時土木の幹部の間で、多少苦心したと言へば苦心をいたしましたことは、一方農村を救済する爲に國庫が金を出すといふことではあるけれども、土木當局として見れば、農村を救済すると同時に、出來れば無駄金を使ひたくない。それには後に残つて、國の財産となるやうな土木工事を残さうぢやないか、斯ういふ考になつて、その觀點から行きますと、どうしても河川で行けば從來懸案だつた大きな河川、道路で行けば先づ國道次に府縣道といふやうな順序に相成るのであります。併しそれが農村救済、津々浦々、公平に救済するといふ觀點から行きますと、大きな土木工事に、一箇所に巨額の金を注ぎ込むといふことは、どうしても農村救済の均分

主義に合はない。爲に動ともすれば不急の工事を起して
唯金をバラ撒く爲に工事を起すといふことになり勝ちで
ある。その間をどうして調和するかといふことが、一つ
の問題であつたのであります。政府の趣旨は、農村救済
といふことにあつたので、吾々もさういふ方向に行きた
いと考へますけれども、當時中川さんが技監で、今日お
いで谷口技監が課長をして居られた。田中君が道路課

に頑張つて居るものですから、(笑聲)その時は大體農村
救済といふよりは、土木振興本位に豫算を作つて、それ
をやれといふことであつた。田中君のお話は、歴代の局
長、課長に仕へてといふ大變態かなお話ですが(笑聲)
今日の言葉で言へば督戦隊みたいなもので(笑聲)吾々
は田中君に命令されて、大藏省にも行き、議會にも臨ん
だ譯です。議會では多少それで窘められました。津々浦
々均分に救済するといふことであるけれども、從來土木
局で計畫して居つた川や道路がすつかり出て来て居るぢ
やないか。それに依つてどれだけ救済されるかといふ表

を出せ、どれだけ人夫を使ふといふ表を出せといふので
すが、道路にしても國道をやればアスファルト材料に澤
山金が掛つて、人間に落ちる金が少いといふことから、
この表が中々出来ない。田中君あたりに言へば、そんな
ことで土木局長が勤まるかと叱られるし(笑聲)私が苦
心したと言へばそんな間に挟まつて窘められた位のもの
です。

それから當時交通調査をやらうといふことで、東京附
近なんか私共見ましたが、豫想外に京濱が酷い。埼玉へ
抜ける道なんかも相當頻繁だぞといふ話もあつたのであ
りますけれども、數字に表はして見ると、品川の八ツ山
の彼處と板橋を比べて見ると格段の違ひで、之には女人
の田中君も數字が出て非常にびつくりしたものです。そ
こで京濱國道からどうしてもやらなければいけないとい
ふので、その當時案がいろ／＼あつたやうであります。
中には東京横濱の間を、全部同じ屋根で續けて、二階建
てか三階建の確つかりしたコンクリートの道路の兩側に

家を造つて、その屋根の上を、左は往で右は來といふやうに、自動車を走らせる案はどうだといふこともあつたのでありますが、結局今工事が著々進んで居ります第二國道を造るといふことに意見が決まつて、私共も兩三日測量の爲に京濱間を歩いたこともありす。今でもそれは愉快な思出であります。

それから長野縣の小縣から諏訪湖のあります諏訪郡へ下る彼處は、大變雪が多くて彼處に初めてスノーセツトといふものが出來た。それは東洋一だから、東洋で初めて出來たのだから見に行かなければならんといふので見に行つたのでありますが、行つて見れば何のことはないのであります。何でも彼處は日本の國道では標高が最も高い所で、五千尺とかあるといふことで、冬季間は信州でありますから、積雪の爲に交通杜絶、それを兩側に土臺を礎つて、冬には隧道みたいなものになつて、交通の不便がない、珍しいものだといふので見に行つたことがあります。そんなのが思出の一つであります。

水野 段々お話がありました。赤松君の時分に支那事變が起つたんだね。それで道路改良事業に非常に縮小があらつたやうに聞いて居ります。その時の何かお話はありますか。

赤松 私の短期間ですから、餘りお話申上げることもないのでありますが、今岡田君からお話のありましたやうに、馬場財政の時に非常に道路が延びることになつて非常に喜んで居つた所へ、急に内閣が送りました、二月でしたか内閣が送ると、私も途端に土木局長になつた譯ですが、結城財政で土木費はうんと削減しなければならんといふ命令が來て居る。二進も三進も行かない状態で、まだ右も左も分らない中に、土木局の仕事を削らなければならんといふ非常に辛い破目になつてしまつたのであります。その時居られた課長連中の助を借りて、どうやら斯うやら収まりは附くのですがその結果土木豫算は非常に減少を蒙つたやうな譯でありまして、隨て道路費の方も窮屈な思ひで致さなければならなかつた。隨て別段お

話申上げることもないのでありますが、唯私の在任中に少し變つた事柄と致しましては、春頃であつたかと思ひますが、三井物産の方からお話があつて、暹羅のバンコックの築港を國際競争入札に附する。それに參加しろと外務省からえらく勧められて、三井物産として乗出さなければならん。助力をして呉れぬかといふお話がありまして。非常に愉快な事柄であり、而も入札の期間が迫つて居りましたので、土木局のその方面の若手連中を殆ど總動員しまして、それに間に合せたことがあつたのであります。間もなく外務省からお話があつて、メキシコで南北横斷道路の一部を築造するに付て、之を國際入札に附するといふ話があつた。そこで日本もそれに參加してやつたらどうかといふお話があつた。或は日本の指名入札だつたかも知れませんが、兎に角日本の土木技術の海外發展の爲に非常に又とない機會であると考へましたので、直ぐ土木建築聯合會の竹中君の方に相談し、竹中君も非常に乘氣になりまして、土木業者が殆ど利益を度外

視して、進出しようぢやないかといふ話が進み、その時丁度體の空いてゐた牧君に行つて貰ふことになつて、向ふへ乗出した譯であります。此の二回の國際土木事業の問題に關係して考へられたことは、民間の土木業者は相當多數ありますが、何と申しても營利事業を營んで居るのでありますから、最小限度の人間しか持つて居りません。斯ういふやうなことになりますと、勢ひどうしても土木局の技術的援助を乞はなければ、到底他へ進出することは急の間に合はない。殊に港灣に付きましたは土木局が權威揃ひであります。道路にしてもさうであります。土木局の歴代の技術者諸君が、非常な努力を拂つて研究精進をして來た結果が、さういふ所に出て堂々競争して國權伸暢の一部にもなり得るのであります。さういふ點から考へまして、更に一層土木局としては技術者の煉磨研究を積んで、何時でも急に應じられ又世界の土木水準技術に遅れを取らない心構へで進んで行く必要があると私直接に感じたのであります。幸にバンコックの築港は

日本のが一等當選になりましたが、メキシコの方も日本がやることになりましたのを、いろ／＼國際關係でその成果は結ばなかつたやうに思ふのでありますが、今後どうして國際的に日本の土木技術を進出させる上から申して、一面政治的背景がなければ勿論中々出来ませんけれども、それと相俟つて、進出する機會が將來は尙ほ一層大きく開けて來るのではないかと思ひます。土木局としては、將來も十分に技術者の養成、人的要素を充實させて置くことに、相當の考慮を拂つて行つて宜いのではないか、政府も亦さういふ方面にも當然金を使つて宜いのではないか、こんな風につく／＼感じた譯であります。

水野 道路法が出來て僅か二十年、この間の變遷を見ると實に今昔の感があります日本には道路といふべき道路はないといふことは外國人がよく言つて居りました雨が降れば靴では歩けぬ。風が吹けば砂塵が濛々として居るといふ時代から、兎も角今日こゝまで進んで來た。今では立派な道路が出來、昭和通りの如きは、外國人が見て驚

いて居る。フランスのシャンゼリゼーは世界でも立派な道路といはれて居るが、是程の延長はない。ベルリンのウンテルデンリンデンも立派な道路であるが、是れもこれ程の延長はない。昭和通りだけの延長のある立派の道路は世界中で日本ばかりだと斯ういふやうに或る外國人は、私に話したことがあります、二十年前には、日本には道路といふべき道路がないと批評した外國人が今日は昭和通りの如き延長ある立派な道路は世界に類がないと讒辭を呈するやうになつたことは日本が最近二十年間に如何に進歩したかを示すものであつて實は欣快に堪へないのであります。兎に角一部分かも知れぬけれども、日本の道路は非常に進んで來ました。今や日滿支が一緒になつて、交通連絡を附けなければならぬといふ時代になつて來た。その時代に山崎君は土木局長であつて、關門海峡の道路が出來、私はあんなことは夢のやうに思つて居つたのですが、それが現に出たさういふことに付て山崎君から一つ……

山崎 私土木局長在任期間は割合に短かつたのであります
が、先程唐澤さんから非常に景氣の好い時代のお話を承
りまして、私當時内務省で會計課長をやつて居り、土木
局のさういふ非常な全盛振りを、間接に伺つて居つた譯
であります。當時は非常な景氣でありまして、五萬や十
萬の金は金の中でないといふ勢ひ（笑聲）非常に唐澤さ
ん御奮闘になつて居つた譯であります。入つて見ますと
その當時とは違つて、道路の經費なんかも大分壓縮され
て困つて居つた譯でありまして、入ると直ぐ近藤事務官
から大いに鞭撻を受けまして、現在の道路の經費は、道
路改良二十箇年計畫に比べると、洵に四分の一位になつ
て居る。これはどうしても何か殖やして貰はなければ困
るといふ意味の鞭撻を受けた。

近藤 汗顔の至りです。（笑聲）

山崎 私の關係しましたのは昭和十五年の豫算だけであり
まして、別に變つた大きな事業もございませんが、一つ
大きな事業としましては、道路舗装の計畫を少し大規模

に考へてゐたのでございます。道路舗装の必要なことは
土木の關係者としては、何人も疑ひのない所であるし、
異論のない所でございますが、今までは必要を認められ
ながら、割合に計畫的に仕事が進んでゐなかつた狀況に
相成つて居りますから、この方に少し力を注いで見たら
どうだらうかといふので、丁度政府の生産擴充の計畫が
五箇年になつて居りまして、それがまだ二箇年残つて居
ります。それと合せて行くのが宜からうといふので、二
箇年計畫を樹てまして、事業費にして四千三百萬圓位の
あります。その土木會議でも大分田中さんからお叱りを
蒙りまして（笑聲）こんな小さい計畫で何がやれるかと
非常に威勢の良いお叱りを受けた譯であります。結局豫
算を編成します時に、その儘大藏省に要求しました。所
が舗装計畫の必要なことは大藏省も認めて呉れた譯であ
りますけれども、昨年あたりから特に物の關係が相當や
かましくなりまして、物の關係で相當行詰りを來した譯

であります。殊にセメントは御承知のやうに生産制限を極度にやつて居りまして、去年豫算を編成します時はセメントの關係が最も難しくなつてゐた時であります。商工省に聞きますとそんな計畫をされても、逆も仕事は出来ぬといふのでんで相手にされません。それが大藏省に知れますと工合が悪いものでありますから、大藏省にはセメントが剩つて居るやうな顔をして居つた、鐵の方は大藏省も知つて居りますが、セメントの方は餘り斬り込まない。漸くそれで豫算を拵へまして、二箇年計畫の事業として、四百萬圓ばかりの經費が計上された譯であります。引續き段々仕事を進めて行かなければならん事情にあるのではないかと思つて居ります。

それから道路の關係でモウ一つ僅かの經費でありますが、重要道路の整備調査費を五萬圓でありましたが計上して貰つた。これは先程座長からお話のございました日滿支の交通關係も餘程變つて参りましたし、今後道路の仕事を進めて行きます上に、どういふ點に重點を置き、

どういふ點を調査するのが必要かといふので、表に取つた譯であります。この表に付て實は東京市と下關、或は福岡間の自動車道路に付ても、一つ調査を進めて行つたらどうかといふこともございますし、又表日本と裏日本との交通關係も、現在の儘ではいかんであります、モウ少し國道の整備に力を盡す必要がある。さういふ點も一つ調査したらどうかといふので、その經費を計上したのであります、日滿支の交通の大きな事業の上に、何等かの貢献をするならば、これは非常に幸ひなことであると考へて居ります。その他には唯従來のやり來りの例へば東海道の道路改良事業を豫算化するか、或は東京新潟間の全然まだ國道の改修の出來てゐない國道改良の繼續事業が承認されたとか、さういふ問題で多少解決された位でありまして、取立てて申上げる程のこともございません。

水野 段々さういふ種々の變革を経て、現局長時代になつた譯ですが、現在の狀況に付てお話を承ることは困難か

も存じませんが、最後に成田局長か谷口技監から、今の現状及び將來に付てのお話を承ることが出来ますれば、大變幸に思ひます。

成田 それでは私から——今晚は先輩の局長の皆様から大變結構なお話、又御苦心談を伺ふことが出来まして、洵に有難く謹聽して居つた次第であります。私も土木のことは全くの素人で、局長を拜命しましてから十箇月ばかりで、勉強はして居ります積りですが、一向まだ目鼻が附かずに困つて居ります。土木豫算に付きましては段々お話がございましたが、支那事變が起りましたから後のことだけを見ますると、事變の起りました翌年、十三年には大分減つて居るやうに思ひます。その後段々盛返しまして、現年度即ち昭和十五年度の豫算、殊に道路の豫算に付きましても随分殖えて居るやうであります、これは前局長その他の非常なお骨折だつたと考へるのであります。戦争の長期になるに従つて、やはり國力の根幹を養ふ土木事業の方に大いに力を致さなければならんと

いふことが、段々豫算に現れて來たのではないかと思つて居るのであります。この頃又大分景氣の良くない話が段々起つて居りまして、山崎さんからお話があつたのですが、先づセメントに付ては本年度は道路課の非常なお骨折で、大體需要量を充すに足るだけの配給はある豫定になつて居ります。所が鐵の問題になりますと、さらにだに不足をして居ります鐵が、例の日獨伊同盟の成立以來の情勢の變化に伴ひまして、一層鐵が減る。而も少い鐵の生産高に對して、一方軍の方の所要量は殖える關係もありませう。既に大分減らさなければならんやうなことになるつて居ります。随ひまして來年度の豫算時分になりますと、鐵の關係に於ては非常に困りませんかと心配をして居るのであります。モウ一つはどうも困つたことだと考へて居りますが、或は土木事業は積極的の事業であつて、いろ／＼統制が強化されて、各方面とも辛抱しなければならん時期になつて來ると、不要不急の事業の一種のやうに見る人が中々あるのであります。私は能

く存じませんが、何でも日露戦争の當時は、戦争の途中は土木事業をやめてしまつたと言ふやうな人もありまして、そんな譯だからどうも辛抱しなくちやならんぢやないかと言ふ人もあるやうな譯で、物の關係で今申しましたやうな土木事業に對する認識不足といふ點から、今まで順調に來て居つた土木事業といふものは、どうも一頓坐を來すのではないかと、非常に心配を致す譯であります。物の關係に付て、足りないものは仕方がありませんが、足りなくてもやれるやうな方法をいろ／＼研究しようぢやないか、又最近の土木事業の性質、實際内容に入つて見ますと、餘程事變色を帯びて居りまして、單純な産業開發、或は單なる積極的の政策の現はれといふだけでなく、多分に軍需の充足といつた方面を現實に織込んで居ります。永い目から見まして、土木事業といふものは、減るべきものではないといふやうな點に付て、一つ大いに奮張つて、この大切な仕事を盛立てて行くことに努力したいと考へて居ります。いろ／＼な方面の情勢は

大分景氣が悪いのでありまして、非常に残念に思つて居ります。出來るだけ私共も勉強もし、努力もしたいと思つて居りますが、幸に皆様方のお集まりの機會でありますし、どうか一つ御援助の程を附加致しまして、お願したいと思ひます。

水野 それでは谷口さん何か……。

谷口 別段何も考へて來て居りませんが、ちよいと思付いたことを申し上げます。自動車の發達で、道路交通といふものは非常な進歩をして來たことは御承知の通りであります。併し今日やつて居ります自動車交通の狀況内容に亘つて考へて見ますと、自動車の能力を十分に發揮して居らない。或人は自動車の實際の能力の半分しか自動車の性能を發揮して居らないと言つて居ります。これはいろ／＼の關係もございしますが、一番大きな原因は、やはり道路の整備が十分でないことに基因するのであります。併しその不備な道路交通でありながら、今日自動車輸送といふものは、段々と他の交通の領域にまで進出しま

して、自動車の交通經濟勢力範圍といふものは、段々擴がつて行く。それらの事から考へますと、今少し道路に力を入れて行く必要がある。他の輸送機關もありますけれども、それらに比較して最も遅れて居る所に力を致しまして、先程お話のありました道路の上を走るものも入れた道路交通といふことを吾々としては飛躍的にやらなければならぬといふ感じを、私常に懷いて居つた所であります。その感想だけを申し上げます。

それから時間も迫つて居りますから簡単に申し上げますが、道路に關しましては、滿洲北支方面に御承知のやうな事情で、道路の事業が大變起りました。事變以來私共の所へ、これら道路の仕事を致します技術者を寄越して呉れと頻々と言つて参ります。出来るだけ都合を致しまして、人を向ふへやつて居ります。最近の状況ではモウ大部分出拂ひまして、技術者が拂底して居る。さういふ點から考へまして、且つ又將來大いに飛躍的にやらなければならぬし、國內のみならず、國外でもまだ必要

求が澤山あるやうに思ひます。その技術者の要求といふことも非常に重要な問題だつたものですから、御關心を持つて戴きたいといふ希望を述べて終ります。

水野 段々お話を伺ひまして、大變有意義でもあり、又興味もあつたのであります。まだ何かお氣附きの點でもありませんたら……。

岡田 谷口さん、まだ自動車の通らない國道がありますか。

谷口 あります。

岡田 どの邊ですか。

谷口 三國峠は全然手が著いて居りません。新しく國道に編入された群馬の利根川の水源から新潟に入ります清水越の西に、あれと並行したものが、まだ全然通りません。

青山 親不知は通りましたか。

谷口 親不知はどうでしたか。

近藤 この間一寸行きましたが、彼處は通りました。非常

にこの頃では便利で、陸軍なども通るやうです。一寸二週間ばかり前に行つたんですが……。

水野

日本には道路改良なんか必要がないといふ人が多か

つたね。江木千之君なんか、日本には下駄といふもの

があるぢやないか、足駄もある。道が悪くてもさういふ

ものがあるから歩ける。雨が降つたら足駄で行けば宜い

ぢやないかといふやうなことを言つて、道路改良なんか

に金を出さなくても宜いといふ人も相當ありました。今

日我國道路の進歩を見て今昔の感に堪へません。

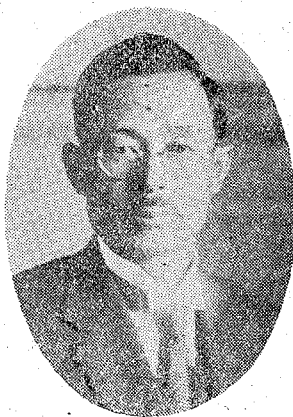
いろ／＼皆さんからお話を下さいまして有難うござい

ました。それでは今日は此程度で散會させよう。(了)

座談會誌上參加

廣瀨 久 忠

日本の道路の發達に付ては、會長水野閣下を初め先輩の各位が非常に御盡力になつて立派な成績を擧げて來て居る



のは洵に喜ばしく存じます。道路の發達の一番の推進力になつたものは、何と云つても國道の發達であり、殊

に京濱國道とか阪神國道等が模範的の道路として他の方面の道路の發達を刺戟したことは言ふまでもないと思ひます。併しこれらと相伴つて非常に大きな推進力の一つとなつたものは、帝都の復興事業の道路の發達であると思ひます。私は復興局に在勤をして居つた關係上、復興事業を道路のことに付て幾つも感ずる所がありますが、言ふまでもなく大震災前の東京の道路は實に慘憺たるものであつて、雨が降れば方々に水溜りが出來て、自動車はボートの代用になると外國人に言はれる程の實情でありました。又非常に道路が狭くて普通の自動車は通れないといふやうな所は

かりでありました。ところが不幸にして大地震があり、大火災があつたけれども、後藤伯爵は實に先見の明ある偉大な經綸を持つて居る人で、東京の再建を圖つて復興事業を起されました。この復興事業の眼目の一つは整備したる道路といふことにあると思ひます。それで例へば昭和道路とか、大正道路とか、その他澤山の立派な道路が東京市内に出來た譯であります。非常に澤山の金も使つたけれども、世界に餘り類例のない都市の大建設を比較的短い間に實行して、世界の東京として恥かしくないやうに築き上げてくれたのであります。

そこで道路のことを考へますと、道路の用地を得ることに付て區劃整理の方法を廣く用いたといふのは、これが日本でも最も模範的なものと思はれます。區劃整理の方法を用ひた爲に無理がなく用地を得ることが出來て、立派な成績が擧げられたことと思ひます。この點は復興事業に於ける道路の特徴であると思ひます。又これが模範になつて、その後地方の都市などにも區劃整理の方法で道路が造られ

たことが澤山あるやうに思ひますが、洵にこれは良い方法であると思ひます。

それから尙ほ復興事業と道路の關係に於て特に注意すべきことは鋪裝——ペーヴメントの問題であると思ひます。以前の東京の道路は裸の土のまゝで自動車の使用には堪へない弱い道路でありましたが、復興事業に依つて鋪裝を非常にやつて立派な道路を造り上げた譯であります。これ亦一つの大きな特色であると思ひます。ペーヴメントの問題に付ても初めは非常に金が掛つて、一坪當り四十圓も五十圓も要るので、中々容易なことではないと思つて居りましたが、段々に技術の進歩、技術者の努力に依つて一坪當りが二十圓程度になり、尙ほそれが安くなつて、遂に東京市内の復興道路ばかりでなく、全國到る處に鋪裝が普及するやうに導いて行つたといふことは非常に仕合せなことであると思ふのであります。これは技術の進歩に感謝しなければならぬ點であると思ひます。

それから尙ほ復興事業の道路の特徴で橋梁の問題があり

ます。從來隅田川に架つて居つた橋は不完全なものが多かつた。ところが復興事業に大いに努力をして、永代橋であるとか、清洲橋であるとか、言問橋であるとか、その他數個の橋を色々異つた形に於て研究して架橋したのであります。而もこれは永久的なもので實に立派なものであります。斯ういふこともやはり日本の道路の一部たる橋梁の進歩に對して非常な貢献をしたものであると思ひます。

その他道路に於て色々復興事業は貢献しましたが、大體以上の三點、即ち用地を獲得する問題、舗装の問題、橋梁の問題が主だつたものであると思ひます。斯ういふやうなことは京濱及び阪神國道が模範として道路の改装を刺戟したと同じやうな意味に於て、やはり日本の道路の發達史上に特筆すべき貢献をして居るものと自分は信じます。

それから自分が土木局長をやつて居る時に、色々道路の問題に於て考へさせられたものでありますが、道路といふものは中々豫算が取りにくいもので、非常な苦心をしました。殊に非常に困つたのは道路の一部づつしか豫算が取れ

なかつた事であります。詰り繼續的に豫算が取れなかつたといふ點に非常に苦心がりましたが、道路の建前上一部分やつたのでは意味を成さないのので、繼續的に毎年豫算を貰へるやうにしなければならぬと思ひまして折衝の結果遂に大藏省もこれを認めて主なる道路に於ては繼續的に豫算が取れるやうな形になつたことを非常に喜んで居ります。

それから又私は最近下關と門司との間の所謂關門トンネルを見ましたが、これは前から非常に問題になつて居つたトンネルで、中々技術者の苦心があつたと思ひます。今日は一應トンネルが開通しましたが、これを見た時に技術者の苦心に對して、事務家が豫算を取つてやらないと、非常な苦心が多くなるといふことを痛感しました。といふのは内務省のやつて居る關門トンネルと、鐵道省のやつて居る關門トンネルを比較して見ると、鐵道省は潤澤な豫算を持つて居り、澤山の經費を持つて居るから、實に立派なトンネルが安々と出來て居るやうな感じが致しますが、内務省の方は豫算がないから非常な苦心をして居りまして、今日

もトンネルの中に盛んに水が漏つて來るといふやうな實情
であります。漏つて來る水と闘ひながら工事をやつて居る
技術者の苦心に對しては洵に同情に堪へませぬ。これらは
何とかして早く豫算を貰つて仕事を纏め上げさせてやりた
いやうに思ひました。

尙ほ又豫算を取る上に於て、政黨といふものが從來弊害
もあつたけれども、他面には中々力になつてしまつた爲に、土木
局の事務の人は豫算を取る上に於て非常に苦心を感ぜられ
るであらうと思ひます。これは餘程地元の府縣その他の團
體と連絡を取つてしつかりやらなければ中々豫算も貰へな
いであらうと思ひます。殊に道路の利用に關して最近のガ
ソリンの節約は、自動車の使用を減ぜしめることとなり、
隨て道路の發達上にガソリンの制限が妨害になつて來る憂
ひがありますから、餘程努力をしても道路の豫算は取りに
くいと思ひます。この邊は土木局の當局も非常にこれから
苦心を要する所であると思ひますが、日本の工業の發達、

文化の進歩といふことに對してまだ、今日のやうな道路
では十分でないことは言ふまでもないのであります。まだ
一貫した國道が完成して居るとは言はれない。又地方の主
たる道路も未完成な狀況であるから、内務省の土木當局と
その關係地方とよく協力して、日本の工業文化の發達に貢
献するやうに立派な道路をます、進展させて貰ひたいと
思ひます。(了)

構造令其他産みの惱み(座談會誌上參加)

牧 彦 七



胎動三十二年
といふ長い歲月
の間所謂十方圍
の形で採みに採
んだ道路法案が
第四十一議會を
案外スラ、と

通過したことは、固より該法案の精練完具といふ點もあるが何と云つても自動車の急激な發達が齎した世界的な道路交通の革命の時運が、我が國朝野の注意を惹くこと甚だ大であつたといふ事實に歸してよいと思ふ。

此の自動車の急激な發達といふことが同時に亦構造令や維持修繕令等の産みの惱みの主因でもあつたのです。と申しますのは、我が國の道路史觀から略ぼ想像し得らるゝやうに、明治以前の膝栗毛時代から其の以後の人力車やテト／＼馬車乃至は荷牛馬車といつた風の緩行車時代へと進んで、ヤット茲に半世紀を過ぎた許りの處で夫れに必要な形質すら尙未だ完成されてない幼稚なる道路が、俄かに十倍十五倍の高速を有する自動車を迎へ入れねばならぬといふ急激な變化に對處すべき道路技術を如何にすべきやといふ難題に逢着したことに因るのです。

茲で豫め斷つて置かなければならぬことは、本座談會に對する私の心持は道路構造令、街路構造令、道路維持修繕令等の當の起草者としての私が當時經驗した苦心苦境の想出

を一つの史談として申し上げ度いので、中には物故せられた先輩の方々の御名前も出ませうし、又時に私の自畫自賛めいた談も出て參りも致しませうが、敢て長廣舌を振るい度いななどいふ私意があつての譯でなく、只唯歴史としてお話することは後世を裨益するものありと信じまして、一切を雜句破亂にお話する次第でありますから、萬一お耳障りの點がありましたも何分御宏量の程をお願致して置きます。

扱構造令其他制定に關する惱みは之を二種類に分つてとが出来ます。其の一は起案者としての私自身の苦心の惱み即ち内苦であり、其の二は原案者としての對人的な苦境の惱み即ち外苦でありまして、今から見れば一の茶話に類した事でも當時は相當眞剣に取扱はれたものですから、中にはお聽になつてナトンだ詰まらないなどお感じになることもあると思ひますが、姑らく御辛抱をお願いします。

先づ内苦の點から申しますと、元來私は水屋であつたのが法案準備時代にお前道路をやれと、大正六年の頃俄かに

其の方に鞍替せしめられた謂はゞ俄道心の道路屋で、腹を

割つて申しますと色々心細い點の多かつたことを回想し
まして今でも時折肝を冷やすことが御座います。單に此の
點から觀た許りでも我が國道路技術當年の實情如何をば大
體推知することが出来るであります。但だ幸なことには
私の長い府縣技師在任中の萬屋商賣の中でも道路には相當
深い興味を有つて居つた。特に最終の府縣生活としての秋
田縣では管内主要な縣里道の改築を行つて來た關係上格別
に其の方との交渉が多くなつて來て居る際のこと、時も時
佛國巴里では萬國道路會議が開催せられたといふ話を傳へ
聞いて、早速に終身會員となつて機關誌を手に入るゝこと
が出来たので、近代道路の要求が何んなものか大體が腹
にあつたのは時に取つての力草であつた。斯かる折しも先
輩の比田孝一技師が歐米視察から持還られた新刊書の中に
自動車と道路測設の關係を説いた面白い本があつたので早
速と手に入れて、是等の誌書をば六韜三略と夜な／＼讀み
耽つたもので、恰も試験前夜の頑張りを思はするものがあ

つて誠に感慨無量な追憶です。

是で俄剃りの青道心にも一應の腹構は出來て、次には道
路構造上の規格に關する陸軍との交渉に這入ることゝなつ
たが、本來軍の希望と近代的一般交通の要求との關係性を
ば一々検討しつゝ其の妥協を進めて行く點に並々ならぬ人
知れぬ骨折があり、當時の土木局の人事では他に相談や手
助けの求め様もなく善にも惡にも私の獨舞臺と謂ふべく、
旁々其の責任感の上から謂はゞ心身の一大消耗戰でありま
した。併し又酬ゐられた所も決して少くはありませんでし
た。と申しますのは例へば「輓馬に對する坂路の勾配と制
限長との關係」を示す私の公式は此の時分の所産の一であ
りまして、是に由ると道路構造令第六條第二項中の「山地
ニシテ已ムヲ得サル箇所ニ於テハ長四十間以内ニ限り十分
一迄ト爲スコトヲ得」といふ最急勾配の制限長は國府縣道
を通じて大體三十間位を適當とすることになるのですが、
軍の要求では五十間となつて居たので其の中間を取つて現
行通り妥結を見た次第です。一體同條第一項では國道と府

縣道の勾配には各別の制限が定められてあるに拘らず、第二項の最急勾配では兩者を通じて一本建に合一せられて居るのであつて、一見非合理的のやうで決して左様でなく科學する心にはピンと來る筈であるが、動もすれば此の概念が未だに十分把握出來て居ない人が相當多い様に思はれるのです。併し此の事は餘談に屬しますから別の機會に譲ることに致します。

此の間謂はゞ疊水練を以て而も世の嗤を招かずに相當永續性を有つべき案文の起草に順次没頭しつゝ、就中近代交通に適應する道路に關し極めて妥當性に富んだ新用語を定むるにも如何に人知れぬ苦心を重ねたことであらう。例へば「ペーヴメント」(舗道の意味に非ざる)を「鋪裝」となし、「ガツタリー」に「街渠」を充て、「クロツシング・エンド・チャンクシヨン」をば「交會」と譯し、又「シヨールダト」を「路肩」と譯して特に之を重箱讀みで讀ませることにし、其の他從來慣用せられて居た街角剪除の「剪」は「翦」の俗字なるが故に之を正字に反へすなどの細事にま

で何れ程思を碎いたことか。古來「言葉は身の文」と能く云はるゝ通り用語の妥當性は即ち法の威信に影響すべきを慮り、一旦新創する以上之を不易の用語たらしめたい熱望より寧ろ技術の本領問題よりは却つて此の方面により多く骨が折れたことを今以て忘れ得ない。

是等の私案をば更に局議で練り直して成案を作り、結局夫れが大正八年十二月内務省令第二十四號や同第二十五號乃至同十年五月内務省令第十五號等となつて表はれたのである。其の際局議で改刪された二三の點で未だに思殘さるゝ問題をば次に語傳へて置く。

初案では道路の有效幅員を數等級に細分し各等級毎に其の下限を定めたものであつたが、局案では等級制を罷めて最低制限の一本建で行くことゝなつて詰まり現行法の様に簡單化せられ、其の以上の幅員増加は交通其の他一般清勢に應じて適當に之を定むれば足るといふのであつた。處が事的情勢に即し若くは之を豫斷して適當な量定をするといふことは多くは至極の難事で兎角法文に明示されてゐる最

低制限の數字に拘著せらるゝ嫌があるやに見ゆる。其の著例の一は國道第二十四號線の松山市への入口の改修道路では兩側の空積石垣の肩から肩までの總幅を規程の有効幅員の下限の四間に取つて、普通の事由を以てしては明かに反則と認めらるゝものすら既に現はれて居る程である。何れ

は道路の事理に明かでない人の設計でともあらうが、之では假りに石垣の天場一杯に車行を許すとしてもポストやバス停留場標識は更にも言はず各種道路標識すら路面には置けぬことになり、折角の改修が意味の無いものになつて誠に惜しむべきである。特に其の改修が將來の交通に及ぼすべき情勢の發展を見込んでない事など、近代交通の特質に無知の致す所で今後技術者の猛省を促がし度い。

次に初案には屈曲部に於ける緩和曲線、餘幅、片勾配等も規定してあつたのであるが、英國でも現道改修の場合には尙任意問題に委して居つた程なので、我が國の道路でも亦漸を追ふて進むを可とするといふので局議で削られたのであるが、大正十五年六月土木主任官會議諮問「道路構造

に關する細則」中に既に此の問題を取上げられて居るのは頗る機宜を得て居る。但々其の適用が動もすれば徹底を缺き交通の實情に相應しからぬやの觀があり、其の著例の一は會て國道第二號線中京津間に於て見られた所であるが、私は切に其の善處を望んで已まぬ。

内苦の方は此の位に止めて次に外苦の方を若干述べて私

の話を終りませう。
局案審議中技監原田貞介博士が獨逸の古ぼけた土木工學全書の道路篇を持出して來て、獨逸の道路では「ゾンメルヴェヒ」——副車道——とか「バンクェット」——步道兼材料常置場——とか云ふやうなものが設けられてあるが我が國では何うする、又路肩の幅一尺五寸位では獨逸の「バンクェット」と較べて狭きに失する嫌はないか等々の問題を出されて、慚からずまごつかせられたことを想起する。

愈々構造令案を道路會議に諮問する段取となつて吾々土木家の大親分古市公威博士を委員長とする特別委員會の議に附せらるゝや、當時會議の幹事を勤めてゐた私から先づ

道路構造令に就て一應原案の説明を試み了ると、劈頭に古市博士の口から「道路に縦斷曲線と……鐵道と間違へてはいかぬ」との評語が會々發せられたので、是は大變此の儘議を進むるのでは何んなに原案維持に努めても結局水泡に歸すべく見て取つたので、隣上席に居た委員近藤虎五郎博士に耳打して「今日は幹事の説明を聴く程度に止め銘々の手許で一應案の研究をした上質問に入ることには仕度い」旨の動議を出して貰つて當日は其の儘散會となつた。仍て次回委員會の當日開議前古市博士に内談し自動車交通に關し細話したる處、只「ウン善し〜」と謂はれたのみで、丸で前事をば忘れたものゝ如く私に存分な原案維持を主張する自由を與へられ、終始微笑を以て巧妙な司會の下に終に原案通り可決せしめられたやうに記憶するが、委員會終了後お禮を述べると只「ハツ〜〜」と哄笑する許り、如何にも御大の貫祿を示されたことをば今更の様に時々思ひ浮べては推服敬慕の情に禁へぬ。

委員柴田畦博士からは第十三條に定むる橋梁の構造に

關聯して輻壓機の輻字の意味如何とかヤレ活荷重の衝擊は如何取るかヤレ風荷重は何うするか等々、流石は其の途の大家だけに稍微に入り細を穿つた質疑や意見が出たのには尠からず面喰つた。私の受大刀姿を見て取つた委員近藤虎五郎博士から救の手が差延べられ、細目のことは斯道の大家に諮つて尙十分の研究を遂げた上細則を以て適當に定むる積りであると補足説明せられたので、ホツトしたことを今以て忘れ得ない。

街路構造令の特別委員會では委員池田宏氏から「街渠」——慣用では「字溝」——と「剪除」とに關し質疑あり、乃ち街渠とは街道の一部にして水渠の用を兼ねる意味を有つ新用語であり、又剪除とは前述の如くに只慣用の俗字を反正したまでのものなりと答へて事済んだ。が次に委員坂本 鈺之助氏より「交會」の語には情事に關する意味があると思ふが如何と稍執拗な質問があつたので、右は交叉と會合とを結成簡易化したもので新用語と云へば新用語と云へぬ譯でもないが、御質問のやうな意味合の外に尙多くの意味

があり本案で採用の意味も即ち其の一に居り敢て妥當を缺いたものとは認めぬと答へて是又其の儘決定した。處が爾後「ヨイ」は是等の用字や用語が誤用せられて居る事例を見るので念の爲め思ひ出す儘特に申述べて置く。

道路維持修繕令案を地方土木主任官會議に諮問した際のことである。「路肩」は詮ずる所道路管理者の負擔を以て遞信省に電柱建設用地を提供することに歸すると云ふ説が出て、吾々が久しく惱まされ抜いた遞信用電柱建設問題を路肩の問題と變に絡ませて群議百出の有様で、如何に口を極めて説明しても斯かる先入があつて路肩の眞の意義が何うしても各人の頭にピンと來ないらしかつたので小委員會を造つて審議を盡くすことにし、其の席上埼玉縣土木課長田賀奈良吉氏の音頭取りで左しもの議論もヤツト鼻が附いて僅かにホツトすることが出來た。尤も其處まで持つて行くには一ト汗も二ト汗も搔かされたのであるが、一體路肩の問題は我が國道路には全く新來の事柄であり、而も近代路面の築造上必須な主役を有つ外種々の副效を伴ふ重要な事

項に外ならず、要するに路肩なくしては近代道路の完全なる築造は固より其の十分なる維持も運用も期待が出來ぬのである。従つて之に關する觀念が完成せられぬ以上假しんば構造令が在つても夫れは單なる皮相的なものに墮し了つて謂はゞ魂の入れぬ佛を抱へて居るやうなものである。旁々是を以て問題は落着く處に落着いた譯となるのであるが、又土木主任官の間に於ける以上の空氣が有力な刺戟となつて爾來漸く遞信當局の態度に僅かづつながら轉向の跡が見えて來たのは、寧ろ一種の拾物であつたことを附加へて置く。

最後に道路法の施行に關係して今以て忘れ得ない勞作の一は施行に蒞んでの新府縣道認定の仕事です。多年に亘つて稍々濫撰に流れ若くは時勢の流れで漸く時代遅れとなつて來た假定縣道や府縣費支辨里道を一ト整理して、更始一新の道路網を再編し近代交通に相應はしい道路の實現に一路邁進せんずる努力は、却つて嚴選に失ずるとして可なり地方を脅かしたらしく、専ら其の査定の任に當つた佐上信

一君と私は大分府縣の嫌はれ者になつたやうです。斯くて新路線の認定は施行期日の前夜半といふ土壇場に東京府の査定を最後として漸く完結し、其の残務整理の手傳に東京府廳まで出張つて四月三日の祭日を丸潰れにしたことは全く感慨深い思ひ出です。

今一つ而もより以上骨の折れた仕事は新法施行に伴ふ道路公債二億八千二百八拾萬圓の計算の勞作です。當時工費の計算資料としては法案調査に際し各府縣から集成した國道・假定縣道・府縣費支辨里道等の延長・幅員・山地平地の別や急坂路・橋梁・隧道の數及延長等々府縣別重要道路の性能調とも謂ふべき數十枚を綴つた唯一冊の調書があるのみでしたが、此の資料と私が多年自營の改修道路に關し輯録した手控からの必要な工費論料とを參酌して、ヤツト軍事國道改良費及び國道・府縣道其他市の重要街路の改良補助費を算出したのでありますが、其の約二ヶ月といふもの毎日午後四時常務を終ると直ぐに此の改修工費の計算に取掛つて、毎夜十時迄居殘夜業を續けて仕上げたもので

あつて、杜撰といへば固より杜撰を免れませぬが當時の事情の下では誠に已むを得ぬ所でした。兎まれ計數の檢算と置上げに人手を借りたのみで善惡とも私一人の責任であることは固より言を須めませぬ。此の仕事の中今考へてもゾツトする思出は寒胃を拗らして酷く氣管支を痛められた時のこと、醫師からは靜養を嚴命せられたものゝ他を以て代え難い而も急を要する仕事なので、斃れて後已まんのみと傲語して醫師の言を退け好きな真を止め胸の周りに濕布をし藥瓶を片手に三十餘日といふものを頑張り續けたのであつた。尤も萬一發熱でもした時は絶対に靜養を要するとの醫命に實は怖かなびつくりで頓服藥を懷中にしながら、或は叶はぬ時の神頼みまでした甲斐あつてか終に無事なるを得て僅かに重任を果たすことが出来たのであつた。幸に無難に事濟んで好かつたやうなものゝ思へば隨分無謀な冒險であつた。一身上の事は姑らく別として一つ間違つたが最後に直ちに國務に累を及ぼすといふ重大な結果を無視したこと氣附くとき正に慄然たるものあるを覺ゆる。

內務省土木局長在職調

氏名	任官年月日	退官年月日	備考
古市公威	明治廿三年五月十七日	明治廿七年六月廿二日	
都築馨六	明治廿七年六月廿二日	明治廿九年二月十二日	
古市公威	明治廿九年二月十二日	明治卅一年七月十六日	技監兼務
鈴木充美	明治卅一年七月十六日	明治卅一年十一月九日	內務次官兼務
南部光臣	明治卅一年十一月九日	明治卅一年十一月十二日	事務取扱
田邊輝實	明治卅一年十一月十二日	明治卅六年一月廿二日	
南部光臣	明治卅六年一月廿二日	明治卅七年二月廿日	
仲小路廉	明治卅七年二月廿日	明治卅七年六月六日	
犬塚勝太郎	明治卅七年六月六日	明治四十三年九月十四日	
水野鍊太郎	明治四十三年九月十四日	大正元年十二月廿一日	
久保田政周	大正元年十二月廿一日	大正三年四月十六日	
下岡忠治	大正三年四月十六日	大正三年四月廿一日	內務次官兼務
小橋一太	大正三年四月廿一日	大正七年四月廿五日	

堀田 貢	大正七年四月廿五日	大正十一年六月十四日
長谷川久一	大正十一年六月十四日	大正十二年十月廿五日
長岡隆一郎	大正十二年十月廿五日	大正十三年十二月十五日
堀切善次郎	大正十三年十二月十五日	大正十四年九月十六日
次田大三郎	大正十四年九月十六日	昭和二年五月十七日
宮崎通之助	昭和二年五月十七日	昭和四年七月五日
三邊長治	昭和四年七月五日	昭和六年四月十五日
丹羽七郎	昭和六年四月十五日	昭和六年十二月十八日
湯澤三千男	昭和六年十二月十八日	昭和七年六月廿八日
唐澤俊樹	昭和七年六月廿八日	昭和九年七月十日
廣瀬久忠	昭和九年七月十日	昭和十一年三月十三日
岡田文秀	昭和十一年三月十三日	昭和十二年二月十日
赤松小寅	昭和十二年二月十日	昭和十二年十一月十四日
安藤狂四郎	昭和十二年十一月十四日	昭和十四年一月十一日
挾間茂	昭和十四年一月十一日	昭和十四年四月十九日
山崎巖	昭和十四年四月十九日	昭和十五年一月十九日

成田 一郎

昭和十五年一月十九日

内務省技監在職調

氏名

任官年月日

退官年月日

備考

古市 公威

明治二十七年

明治三十一年五月

仲野 忠雄

明治四十四年四月

大正七年七月

原田 貞介

大正七年七月

大正十三年三月

市瀬 恭次郎

大正十三年三月

昭和三年九月十三日

中川 吉造

昭和三年九月十三日

昭和九年五月十一日

青山 士

昭和九年五月十一日

昭和十一年十一月七日

辰馬 鎌藏

昭和十一年十一月七日

昭和十四年六月六日

谷口 三郎

昭和十四年六月六日